

全国校園長会との懇談

全国国公立幼稚園長会

全国連合退職校長会が掲げた「教育尊重の気運を高め、教育振興に寄与する」ためには、各都道府県退職校長会との連携と共に、全国幼小中高・特別支援の校園長会との密接な繋がりが必須になります。

特に、文部科学省を始め関係諸機関への提言・要望・意見具申等を実施する際に、本会が現職の校園長会の支援に徹する要望活動を展開することにより、一層の効果が期待されます。

平成十九年度から、各校種毎に懇談会を開催し、相互の連携を深め、本会の要望事項の中にその成果を盛り込んできました。

以下、各校種毎の懇談の要旨を掲載し、現職の校園長会が抱える課題と本会に寄せられた依頼事項をお知らせします。

日時 七月十七日（金）

午後三時～四時三十分

会場 全連退事務局 会議室

参加者（国公幼）

会長 岡上 直子

事務局長 深町 芳弘

（全連退）会長、入子、戸張、大野、白石

受領資料「平成二十二年予算に対する要望書」他

懇談内容（幼側）◎印、退側○印

◎免許更新講習の充実

◎受講内容の整備充実、受け入れ先の大学の体制整備、制度の維持・管理等を（文科省の責任で進めたい）

◎免許更新講習が役立つようにしたい。園内研修の充実も大切である。

◎教員のレベルアップにつながる

◎補充措置、開催時期、期間等に課題ある。

◎幼稚園教員は少人数であり、参加に伴う補充措置が厳しい。

◎預かり保育について

◎地域の実態や保護者の要請で実施、教育課程外の教育活動。園で過ごす時間増、教員の超勤等課題も多い。

◎全連退としては、非常勤職員の配置要請をしていきたい。

◎預かり保育にかかわる資格や条件を明確にしていきたい。

◎園としては、有資格者を希望。臨時職員に比べ非常勤職員の経費は三倍、区市の財政上の問題、預かり保育の責任は園長にある。

◎預かり保育と認定保育園の関係

◎設置する市町村の財政措置による。

◎預かり保育は五十八箇所、全国的に網羅されているか。

◎幼小の接続のための合同研修について

◎小一プロブレムの解消、幼から小への生活の変化への不適應、学級の不適應状況。遊び中心の幼稚園と学習を中心の小学校との円滑な接続のために、地域の実情に応じた創意工夫をした連携。

◎組織のこと、会費のことを検討、骨太の方針二〇〇九では、無償化も検討中。

◎全連退の力もお借りしたい。

全国連合小学校長会

日時 七月二日（木）

午後一時三十五分～

二時四十五分

会場 全連小事務局 会議室

参加者（全連小）

会長 向山 行雄

副会長 都筑 積

副会長 富田 幸一

対策部長 露木 松仙

調研部長 有馬 守一

事務局長 大内 敏光

（全連退）会長、入子、大野、田中、白石

受領資料「平成二十一年度小学校教育の充実に関する文

施策並びに予算につ

懇談内容 (小側◎印、退側○印)

①子どもと向き合う時間を確保するための条件整備

◎月平均三十四時間から四十時間の残業、多忙感をなくすために、も定数改善が急務。事務主事の活用、サポートセンターなどの条件整備が必要。

②魅力ある校長像の構築と処遇改善

◎地域差があるものの管理職希望者が激減。処遇改善を一貫して求めていくと同時に、校長が志を高く掲げ、権威を高め、魅力ある管理職を育てる。

③教育課程の円滑な実施のための条件整備

◎四十年ぶりの授業時間数増加、履修漏れの心配、一〇〇%実施に向け努力と共に、人的措置や教材教具などの整備が重要。

◎子どもと向き合う教師、残業も多く、定数改善が必須。副校長の業務が増え、居残りが多い。

あげずに、弾力的な一学級定数削減を要望する。

◎全連小も数字をあげずに、弾力的な運用で定数改善要望を。

◎全連退では先取りして第八次教職員定数改善を要望する。授業時間の増加対策として、国が授業日数を決め、内容は市町村で考える方向を提案する。

◎外国語授業や理科など教師のスキルアップが必要。夏休みに研修させたたくも資格研修、集中的休暇等で実施できない。

◎大阪等では英語研修が進んでいる。授業時数の増加は子どもへの負担が大きく、意欲の減退が心配である。

◎病気、多忙感、行政対応、モンスターペアレンツ等への対応で定年前に退職する校長がある。規制緩和が進み、切磋琢磨はいが、学校への要望や競争原理だけが增えている。

◎特に、校長の連帯感が薄れ、孤立感が深まっているのではないか。

◎教員定数をいじれば教育向上につながるものではない。数は大事だが、教員の質の向上を忘れてはいけない。指導主事の高め、研修を深めたい。

◎人的・物的な教育諸条件の整備にいつその支援を期待する。

全日本中学校長会

期 日 六月二十五日(木) 三時〜五時

会 場 全日中会館 会議室

参加者(全日中)

- 会 長 岩瀬 正司
- 予算対策部長 加藤 隆太
- 給与対策部長 斎藤 孝司
- 事務局長 青柳 修治

(全連退) 会長、戸張、木山、村山、田中、岡野

受領資料「文教関係立法・予算措置要望」

懇談内容 (中側◎印、退側○印)

①教職調整額の在り方

◎義務教育等教員特別手当が、本給の三・八%から三・〇%、

さらに来年一月から二・二%に引き下げられる。

時間外手当でという対応案あるが、管理面で問題である。

◎全連退としては、現行の教職調整額は「教材研究手当」として堅持し、時間外勤務手当の新設を要望していく。

◎栄養士が現在二校に一名だが、これを改善してほしい。

◎養護教諭の未配置校を無くす。

◎主幹教諭の後補充が難しい。

◎講師が、地方では一人が複数教科を担当、東京では教科によって持ち時数が違う。

◎主任には持ち時間の軽減がある。主幹にはないが必要である。

◎教員志望者が減ってきたのは、子どもと真剣に取組めないことが影響しているのでは。

◎勤務時間外の件で、「変形労働時間制の導入にも一長一短あり」というのは、普段長時間の勤務に対して、夏休み等は勤務時間を短くするというもので、問題が多い。

②新学習指導要領移行に伴う条件整備

◎理科の時間増で総時数が増加。

子どもと向き合う時間が益々短くなる。教科の指導内容増、探

求学習の充実への対応のために

は、正規職員の増加が必須にな

る。授業時数確保のために、夏

休みの短縮、開校記念日や都民

の日の授業を実施する例も出て

きている。

◎授業日数の確保がまず必要。

人的措置の具体策が必要である。

◎骨太の方針で予算化が厳しい。

◎教員免許更新講習の在り方

◎終了認定の公平性、優良教員の

免除の基準、講習費・交通費等

課題が山積している。

◎講習会の講師が話す内容が真に

役立つかが課題である。

◎校内研修費の削減。免許更新制

と共に校内研修の充実が必要。

◎女性管理職の減少、主幹になり

たがらない傾向は問題である。

◎免許更新制の評価を厳しく、大

学の講義内容の評価も同様。

◎信頼を基礎に、「有言実行の全
日中」を目指す。研修も大事だ
が、健康も大事である。

全国高等学校長協会

日時 六月三十日(火)

二時～四時

会場 全高長事務局 会議室

参加者 (全高長)

全高長事務局長 小栗 洋

全普高等事務局長 海野 省治

(全連退) 入子、木山、田中、
前田

懇談内容 (高側◎印、退側○印)

①高大接続について

◎企業から新たに高校卒業認定試

験を卒業時に実施する案、大検

合格者のいずれかを大学受験さ

せる案が出され、協議中。

◎全連退でも協議、高校教育に弊

害がないよう望む。

②学習評価に観点別評価を導入す

ることについて

◎小中で実施している観点別評価
を高校でも実施(案)が文科省

より示された。高校としては、
その実施に当たっては、今後の
研究課題となっている。

◎教員の多忙化

◎人確法の教員調整額4%がな

くなり、教員の勤労意欲が低下す

る。

*この他、「学習指導要領の歯止

め規程」、「道德教育の全体計画

の作成」、「土曜日の利用」、「英

語による授業」、「教員免許の更

新制」、「学校評価」、「管理職の

人数減」等々の課題について懇

談した。

全国特別支援学校長会

日時 七月二十四日(金)

四時～五時三十分

会場 全特長事務局 会議室

参加者 (全特長)

会長 岩井 雄一

事務局長 兵馬 孝周

(全連退) 会長、野口、木山、
白石

懇談内容 (特側◎印、退側○印)

①教職員定数の改善について

◎教職員定数改善については、小

中とは要求の中味が違う。特別

支援も独自の要求をしているが、

行政の対応は厳しい。

◎教職調整額の見直し等への意見

はどうか。

◎給与に関しては、小中と高校の

給与が一本化されたので、対応

して取組んでいる。

◎給与の六%減への対応は、現状

制度が地教委等で変化があり見

守っている。

②教室・学校不足について

◎学校不足の原因は障害のある子

どもの実態把握が厳しい。結果

として、教室をカーテンで仕切

って使用することも。

③公立学校への意見・要望

◎始まった制度の中で温度差があ

り、取組の粗密差がある。

◎学校関係者のみでなく、企業、

医師、関係団体等の地域支援の
輪が必要になる。

(総務部 白石 裕一)

